

岐阜県東濃地域における 外来植物の経年分布調査

3639 山田真由香 3634 三尾奈々

要旨

岐阜県東濃地域の外来生物の生息範囲を調べ、在来植物に及ぼす影響について考え探究することを研究目的とした。調査対象はオオキンケイギクとオオハンゴンソウの2種とし、過去の生息域との変化を調べるために現地調査を行った。その結果、中津川市のみ外来植物の分布状況が把握できた。また、山林よりも市街地や道沿いに分布が多く確認された。このような結果から、外来植物は車などによって種が運ばれ、道沿いに多く分布していると考えられる。今後は効果的な駆除方法を考える必要がある。

1. 目的

地元地域における外来植物の年度経過の繁殖具合を調査する。

2. 仮説

外来生物の生息域が広がり在来生物の生息域を奪っている。

3. 材料及び方法

・材料

オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata*

オオハンゴンソウ *Rudbeckia laciniata*

調査対象種は、オオキンケイギク、オオハンゴンソウとした。この2種は、過去の文献（岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物—岐阜県レッドデータブック—2001）により、確実に県内に分布する特定外来生物であることが確認されている。

オオキンケイギク（写1）は、北アメリカ原産で、繁殖生態は頭状花、虫媒花、瘦果である。繁殖期は5月から7月で、1880年代に観賞用、緑化用として日本に導入された。

多年草、茎は束生し高さ30~70cm、根生葉は長柄があり、3~5小葉に分裂、茎上の葉は茎の下半部に集まり、上方のものは分裂せず、両面ともあら毛がある。頭花は径5~7cm、総包外片は8~10個あって1列に並び厚質、総包内片はやや薄く大

きい。舌状花は橙黄色、花冠の先は4~5裂、筒状花も同色で花床には長さ5~8mmの鱗片。果実（瘦果）は扁平、黒色で光沢を欠き、へりは褐色のひれ（翼）にとりまかれる。染色体数n=10。ホソバオオキンケイギク、オラゲオオキンケイギクを区別することもある。

・生息環境：路傍、河川敷、線路際などの荒地、海岸

・温度選好性：温帯

・法的扱い：外来生物法で特定外来生物に指定された。移入規制種（佐賀県 環境の保全と創造に関する条例）

・国内移入分布：沖縄を含むほぼ全国



写1 オオキンケイギク

オオハンゴンソウ（写 2）は北アメリカ原産で繁殖生態は頭状花，虫媒花，瘦果である。繁殖期は 7 月から 10 月で明治中期に観賞用として導入された。



写 2 オオハンゴンソウ

・方法

1) 現地調査

自動車や徒歩などによって目視でオオキンケイギクを生育調査する。

2) QR コードを活用したアンケート調査

調査対象種の分布の有無および蔓延状況を把握するために岐阜県立恵那高等学校の生徒を対象としたアンケートを作成した。アンケートには発見した対象種名と場所の項目を設けた。また QR コードを添付したチラシを校内に貼りコードを読み取ってアンケートに答えられるようにした。

3) 聞き込み調査

市役所などの自治体に情報提供を依頼した。主な対象は東濃地域の中津川市，恵那市，瑞浪市，土岐市，多治見市の市役所の環境課などである。

4. 結果

1) 現地調査

中津川市でオオキンケイギクが 165 か所確認できた。(図 1)

2) QR コードを活用したアンケート調査

アンケートに返答してくれたのが 2 件だった。そのうちの 1 件は対象種の名前は記入されていたが発見した場所が記入されていなかった。



図 1 令和 3 年に調査したオオキンケイギクの分布

3) 聞き込み調査

岐阜県東農地区の恵那市，瑞浪市，土岐市，多治見市，では外来植物の駆除方法についての活動は行われていたが，分布状況に関してのデータの収集は行われていなかった。そのため市の分布状況は把握できなかった。しかし，中津川市のみ独自の調査が行われていたため H25 から R1 にかけての分布状況が把握できた。(図 4) また岐阜県庁でも県内の外来種の分布状況を 5 年ごとに調査が行われていた。そのためオオキンケイギクでは H23，H28 年度の分布状況のデータを得ることができた。(図 2) オオハンゴンソウでは H28 のみ分布状況のデータを得ることができた。(図 3)

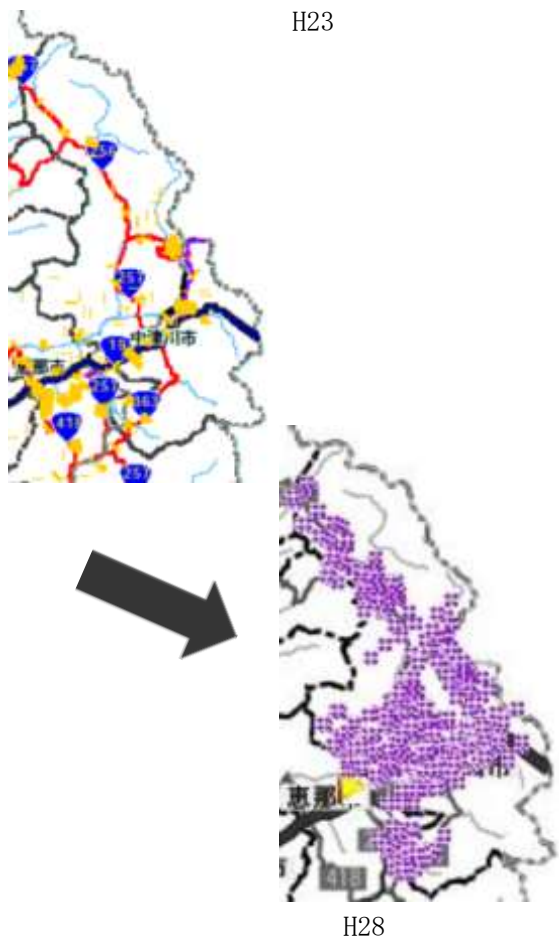


図2 H23 から H28 時点で把握しているオオキンケイギクの分布状況
岐阜県庁環境企画課より



図3 H28 で把握しているオオハンゴンソウの分布状況



図4 H25 から R1 時点で把握しているオオハンゴンソウとオオキンケイギクの分布状況
中津川市役所環境政策課より

※図4ではオオキンケイギクを赤の点
オオハンゴンソウを緑の点
青い点は関係ないものとする。



図5 図4を拡大したもの

図から読み取れることとしては、過去のデータと同様にオオキンケイギクの方がオオハンゴンソウよりも多く確認された。また図2より山林よりも市街地や道沿いに多く分布が確認されたが福岡地区(図5)のあたりでは道沿いにもかかわらずあまり生息が確認されなかった。

5. 考察

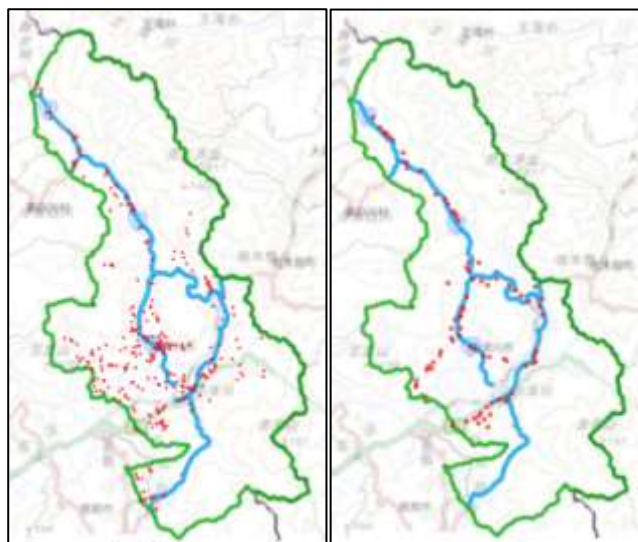
結果3から車などによって種が運ばれ、あちこちに自生しているのではないかと考えられる。結果2からデータを十分に得ることができなかったのはチラシの掲示を宣伝しなかったことと、それによって協力を得にくかったことが考えられる。

今後の改善策としては十分なデータを得るために校内にチラシを掲示するだけでなく生徒一人一人に詳しい説明をしてチラシを配布する。また調査規模を校内だけでなく地域の方々まで広げる必要がある。

また結果1から令和3年に行ったオオキンケイギクの分布調査では今までの結果と大きく変化した点はみられなかった。しかし、前回福岡で分布が見られなかった地域で今回は分布が確認できた地点(図1)もある。ただし、おもに道沿いを中心とした調査しか行うことができず前回のもの比べるとデータ不足であることが課題である。

6. 展望

効果的な駆除方法を見つける。具体的には今現在これらの2種は草刈りなどでしか駆除できない。(中津川市環境政策課より)そのため根が残っていたり種が落ちてしまったりして結果、次の年に再び生えてしまい完全な駆除ができていない。また岐阜大学の研究でオオキンケイギクの活用法について研究されていたので、今後は食用やその他の活用用途がないか探っていきたい。



H25 から R1

R3

図6 オオキンケイギクの生息地の経年比較

7. 謝辞

岐阜県庁(環境課)、岐阜県の各地方事務所各位には情報収集にご協力いただきました。恵那高校の生徒および先生方にはアンケート調査にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

8. 参考文献、引用文献

- ・岐阜県庁
<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/56531.html>
- ・中津川市役所
<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/category/1000/>
- ・国立環境研究所
<https://www.nies.go.jp/>
- ・岐阜県の絶滅おそれのある野生生物—岐阜県レッドデータブック—2001
- ・国土地理院
<https://www.gsi.go.jp/>